令和４年度事業報告

Ⅰ　事業概要

滋賀県は、森・川・里・湖がつながり琵琶湖をはじめとする豊かで美しい自然を有している。県土のおよそ２分の１を占める森林は、人工林、天然林が相まって四季折々の風情を醸し出しているだけでなく、生命の源である清らかな水を養い、県土を保全して、人間をはじめ多くの生き物のいのちを支えている。

こうしたことを背景に滋賀県では、「琵琶湖森林づくり条例」に基づき、環境に配慮した森林づくりおよび県民の協働による森林づくりが推進されている。

また、令和４年６月５日に滋賀県で開催された第７２回全国植樹祭では、これまで数年にわたる準備を経て森づくりへの機運を醸成し、県内全域・県民総ぐるみで大会を盛り上げることができた。

一方、国においては、「森林経営管理法」に基づき、林業の成長産業化と森林資源の適切な管理の両立に向けた森林経営管理制度を運用し、併せて、森林環境譲与税による市町村を中心とした新たな森林整備に取り組んでいるところである。

こうした中、本会は、公益財団法人としての自主・自立的経営と円滑な組織・事業運営を確保するとともに、緑の募金による財源をもとに、県民・企業・団体等の理解と協力による緑の募金の一層の普及・啓発と、安定した収入による緑化事業の充実に取り組んだ。また、緑豊かな県土づくりを県民との協働により進めることを通じて、「ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）」が掲げる目標への貢献に努めた。

具体的には、「中期経営計画」（令和元年度～令和５年度）（以下「中期計画」という。）に基づき、新型コロナウィルスの感染防止対策を徹底しながら、次の事項に重点をおいて事業を展開した。

１　県民の森林・緑づくりの大切さの理解や緑化思想の普及・啓発

２　令和４年に開催された第７２回全国植樹祭等による県民の緑化意識の向上と植樹行事の取組

３　地域住民等による森林づくりや森林ボランティア等による自主的な活動への支援と県民協働による森林づくり

４　地域住民等による学校、公園、街路等の公共施設を中心とした身近な緑づくりの推進

５　環境緑化に取り組んでいる企業の有料レジ袋収益金の寄付による平和の緑づくり事業等の実施

６　緑の少年団の育成強化への積極的な取り組みとして、「緑の少年団サポーター」である滋賀森林インストラクター会による少年団指導員の研修

７　適切な事業内容による組織運営とホームページをはじめ、様々な広報媒体の活用による情報公開の一層の推進

Ⅱ　全体事業実績

１　森林・緑づくりの普及・啓発

（１）緑の募金運動

１）募金活動期間

春期　令和４年４月１日から令和４年　５月３１日まで
秋期　令和４年９月１日から令和４年１０月３１日まで

２）募金の方法

①　募金運動の推進

市町緑化推進委員会、緑化推進会各地区担当、各種団体、企業などの協力により、新型コロナウィルスの感染防止対策を図りながら家庭募金、街頭募金、職場募金、企業募金、学校募金および篤志募金を進め、企業および職場等への募金箱の設置、企業に募金協力を呼びかけるダイレクトメールの送付等による募金活動を展開した。

なお、春・秋の街頭啓発活動については縮小して実施した。

②　広報活動

緑の募金ポスター1,450 枚、募金チラシ 130,000 枚（春募金 110,000 枚、秋募金 20,000 枚）、第 22 回「森林・緑と水といのち」写真コンクール募集ポスター700 枚、チラシ 10,000 枚および「緑の募金・緑化推進」標語コンクール募集ポスター570 枚、チラシ 7,000 枚等を市町および関係者の協力によって、自治会、各家庭、各種イベント会場や街頭募金等において掲出または配布し、広く緑の募金の啓発を行った。

また、春の啓発期間の開始に当たっては、新聞広告や大津市内のバス路線の一部（6 台）において車外後部看板の掲出を実施し、緑の募金の啓発に努めた。

また、前年度に引き続き県域のテレビ、ラジオ等電波媒体による広報活動を実施した。

３）募金実績

・募金目標額		６０，０００，０００　円
・募金実績額		４２，２６１，９０２　円
（内訳）	家庭募金	３０，８０６，８３０　円
	街頭募金	２２３，４３４　円
	職場募金	１，０３８，５７１　円
	企業募金	５，６８０，７８９　円
	学校募金	１７２，１９７　円
	篤志募金	４，３４０，０８１　円

（２）コンクール等の実施

第２２回「森林・緑と水といのち」写真コンクールおよび「緑の募金・緑化推進」標語コンクールを実施するとともに、全国育樹活動コンクール、全日本学校関係緑化コンクール、国土緑化運動・育樹運動ポスター原画募集等への参加を促した。

１）第２１回「森林・緑と水といのち」写真コンクール入賞作品の展示

緑の募金啓発活動の一環として、令和３年度に行ったこのコンクールの入賞作品３５点を４月１９日から５月１９日まで県庁４階の渡り廊下ギャラリーで、６月１５日から９月２０日まで（株）平和堂の協力により県内各店で巡回展示し、緑の募金と緑化推進の啓発に努めた。

６月１５日～６月２８日　平和堂安曇川店（高島管内）
６月２９日～７月１２日　アル・プラザ彦根（中部・湖東管内）
７月１３日～７月２６日　アル・プラザ長浜（湖北管内）
７月２７日～８月　９日　ビバシティ（中部・湖東管内）
８月１０日～８月１８日　アル・プラザ近江八幡（中部・東近江管内）
８月１９日～９月　６日　アル・プラザ水口（甲賀管内）
９月　７日～９月２０日　アル・プラザ草津（西部・南部管内）

※２）第２２回「森林・緑と水といのち」写真コンクール

このコンクールには１８２点の作品が寄せられ、審査の結果、特選（知事賞）をはじめ、金賞（県教育長賞）、銀賞（緑化推進会理事長賞）、特別賞（平和堂社長賞）など３６点、３１名の方が受賞された。

（※　上記２）は平和堂事業）

３）「緑の募金・緑化推進」標語コンクール

緑の募金の趣旨や緑化推進の大切さを県民の皆さんにご理解いただき、啓発を図るため実施したこのコンクールには、２７６点の作品が寄せられ、審査の結果、最優秀賞（知事賞）、優秀賞（県教育長賞、緑化推進会理事長賞）、努力賞（県森林組合連合会長賞、県林業協会長賞、県木材協会長賞）など、９点の入賞作品が選ばれた。また、そのうち優秀作品６点を（公社）国土緑化推進機構のコンクールに応募出品した（受賞はなし）。

４）国土緑化運動・育樹運動ポスター原画募集

国土緑化運動・育樹運動ポスター原画を募集したところ、２１３点（小学生７０点、中学生９７点、高校生４６点）の応募があった。そのうち優秀作品１４点を（公社）国土緑化推進機構のコンクールに応募出品したところ、１点が入選した。

５）啓発誌の発行

① 緑化推進会　湖国「緑の募金」（第３９号）　(3, 200 部)

② 緑の少年団「びわ湖緑の少年団」（第２５号）　(6, 600 部)

２　第７２回全国植樹祭での取組

（１）開催結果

令和４年６月５日（日）に、甲賀市鹿深夢の森を主会場として「第７２回全国植樹祭しが２０２２」が開催された。前年の島根県大会につづき、天皇皇后両陛下にはオンラインでの御臨席を賜わった。

「森―川―里―湖」のつながりを大切にした開催理念の思いを表した「木を植えよう　びわ湖も緑のしずくから」を大会テーマとして、おごそかな式典と華やかなアトラクションが展開された。

式典では未来の森づくりを担う「緑の少年団」が重要な役目を果たした。さらに次世代を代表する方々が、木々を植え育むこと、森や川や湖とともに生き大切にすることを胸に、緑ゆたかな森と碧く輝くびわ湖を未来へ引き継ぐことを誓うなど、本県の森づくりが一層熱心に取り組まれる機運が作られた。

１）植樹会場

招待者記念植樹会場（４箇所）：鹿深夢の森およびみなくち子どもの森（甲賀市）、比叡山（大津市）、市原ここにこの森（東近江市）

一般植樹会場（３箇所）：地球市民の森（守山市）、きゃんせの森（米原市）、森林公園くつきの森（高島市）

サテライト会場（３箇所）：忍の里プララ（甲賀市）、琵琶湖博物館（守山市）、えきまちテラス長浜（長浜市）

２）植栽樹種と本数

スギ、ヒノキ、コナラ、クヌギなど３３種　約２，９３０本を植樹

３）参加者数

参加者数合計　１４，９２６ 人

（内訳）式典招待者数　９４３ 人

サテライト会場参加者数　１１，１９７ 人

一般植樹会場参加者数　６７４ 人

スタッフ、出演者数　２，１１２ 人

（うち県内外の緑の少年団　３５団　２６５人）

※ 滋賀県緑化推進会では、おもてなし広場にブース出展し、緑の募金等の広報活動を行った。

（２）ポスト全国植樹祭イベント

開催日：令和４年１０月２３日（日）

会　場：鹿深夢の森、滋賀県油日林木育種場

参加者：約３００人（知事、県議会議長、甲賀市長、理事長、イオン副社長、緑の少年団等）

内　容：（公財）イオン環境財団との協働による植樹等の森づくり活動、全国植樹祭の開催理念を将来世代に伝えるために建立する記念碑の除幕、天皇皇后両陛下がお手植えされた苗木のお披露目

３　森林整備

（１）森づくりの支援

琵琶湖の水源として重要な役割を果たしている森林を健全に育成し、水源涵（かん）養機能および水質保全機能を高めるための森づくり事業、森林・林業への理解と参画意識を高めるための普及啓発などを主とした森づくり活動を支援した。

１）ふれあいの森づくり事業

地域住民が自ら森づくりに対する理解を深めるとともに、語らいや休養の場をつくるため、栗東市ほか４市（６箇所）で、コナラ、イロハモミジ等の広葉樹の植栽とともに、枯損木の伐採等の森林整備に支援を行った。

２）学校林づくり事業

学校林整備等により青少年の森づくりや緑への関心、理解を深めるため、大津市３校、湖南市１校、長浜市２校の６校において、学校林等での苗木の植栽や下草刈り、間伐、歩道整備、枯損木の伐採などの取組に支援した。

３）協働の森づくり事業

森林ボランティア等が広く住民に呼びかけて森づくりを行う協働の森づくり事業として、２団体の活動に助成した。

４　緑化推進

（１）　身近な緑づくりの支援

１）生活環境の緑づくり事業

生活環境をより潤いのあるものにするため緑化苗木６，２８７本を配布し、３９２箇所の公園、自治会広場および小学校等の公共施設において地域住民の協力により植栽を行い、地域の生活環境の緑化を図った。

２）緑のまちづくり事業

小・中学校および公共施設等において緑化啓発および記念行事等として行われる植樹で、緑化の啓発効果が著しく期待できるものに対して緑化苗木（６１本）を交付する事業で、本年度は５カ所で実施した。

３）淡海の巨木・名木次世代継承事業

人々の心の支えやまちの顔あるいは地域の誇りとなっている樹木に必要な手当をすることにより、生き生きとした樹木として次世代へ継承していくことを目的として、県内５カ所（稲荷神社のスダジイ、浄顕寺の菩提樹、高屋八幡神社のカゴノキ、里口神社のカヤ、慈眼寺のスギ）の巨木・名木に樹勢回復の事業費を助成するとともに、栗東市手原三丁目地先の稲荷神社で「巨木・名木治療研修会」を実施した。

※４）桜の並木・森造成

県民の安らぎと憩いの場をつくり、国の花「さくら」に多くの県民が一層親しめるようソメイヨシノや神代アケボノ及びヤマザクラの苗木を公益財団法人関西みらい銀行緑と水の基金から５５０本、琵琶湖汽船株式会社から５０本、計６００本の寄贈を受けて、県下１１市町の１６箇所の地域広場、公園等の公共施設等に配布し、環境緑化を図った。

※５）学校、福祉施設等の環境緑化の推進

公益財団法人関西みらい銀行緑と水の基金からジンチョウゲの苗木１４１本の寄贈を受けて、県内の学校、福祉施設等に配布し、環境緑化を図った。

※６）平和の緑づくり事業

株式会社平和堂の有料レジ袋収益金の寄附を受けて、県内の小・中学校、保育園等５施設にシンボルツリーとして緑化樹木（県の木：モミジ）を配布するとともに、緑化樹木周辺にハナモモなどの果樹、ハナミズキ、ツツジ等を植栽した。そのうち保育園には木育玩具も寄贈した。

※７）ゴルファーの緑化促進事業

公益社団法人ゴルフ緑化促進会からの緑化協力金により、滋賀県立陶芸の森にサクラ（神代アケボノ）１１本を植樹したほか、ローズゴルフクラブにおいてマツクイムシ防除のためマツ８本に樹幹注入を行った。

（※　上記４）５）はともに現物苗木受領のため本会経理は未計上、
６）は平和堂事業、７）は緑化一般事業）

（２）森林・環境活動の支援（子どもたち等の育成）

森林・緑に親しみ、愛し、育てることを通じて健全な心身を養うことを目的とする緑の少年団等の育成および支援を行った。

特に、令和４年６月５日に鹿深夢の森で開催された第７２回全国植樹祭の式典行事へ県内外の緑の少年団３５団、２６５名が参加した。

１）　緑の少年団等の育成および交流会の実施等支援

①　緑の少年団の育成支援

緑の少年団を育成するため、５２団に対して活動装備の整備および活動費の助成を行った。

②　緑の少年団サポート事業

県内の緑の少年団の適正かつ効果的な活動を推進するため、「緑の少年団サポーター」である滋賀森林インストラクター会による少年団指導員の指導を行った。

ａ．地区別集団指導

県内を６地域に分けて、室内・屋外研修（草木あそびを取り入れた植物観察）を８回（西部・南部１回、甲賀２回、東近江１回、湖東１回、湖北２回、高島１回）実施。受講者：７０人（５２団）

ｂ．個別指導

個別指導希望団（３団）に対して、個別指導を行った。

③　緑の少年団地区別交流会の開催

緑の少年団の育成・交流を図るため、県内１地区（甲賀）で交流会を開催した。

④　こども水源の森サミット（里山レクリエーション活動）の開催

令和４年１０月２３日（日）に、油日林木育種場（甲賀市）において、県内緑の少年団１０団（１１８人）が参加し、植樹活動、里山秋の運動会として木登りクイズや植物の種集めを行った。

⑤　緑の少年団活動交流会の開催

令和５年２月２５日（土）に、県立びわこ地球市民の森（守山市）において、県内緑の少年団４団（４９人）が参加し、滋賀森林インストラクター会の指導による自然観察やを１年間の活動発表のほか、ネイチャークラフトとして思い思いの作品づくりに挑戦した。

⑥　機関誌「びわ湖緑の少年団」第２５号の発行

本年は、土山室内運動場及び田村神社境内林（甲賀市土山町）でのこども水源の森サミットの様子、各団の活動状況、全国植樹祭での少年団の活躍の様子などを掲載した機関誌「びわ湖緑の少年団」第２５号を６，６００部発行し、団員全員および関係者に配布した。

２）緑の幼年団育成強化事業

次の活動団体を支援し、育成に努めた。

実施主体：くさつ緑の幼年団（ＮＰＯ子どもﾈｯﾄﾜｰｸｾﾝﾀｰ天気村）

内　　容：就学前の子どもやその保護者を対象に、身近な自然の中での「遊び」や他者との交流活動を通して、自然の魅力や面白さを体験する活動に対して助成した。

３）森林緑化活動団体助成

地域において緑化等の活動を行っている次の団体に対し、活動費の助成を行った。

①　日本ボーイスカウト滋賀連盟の活動支援

街頭での緑の募金および同連盟のキャンプ場における植樹活動に対して助成した。

②　里山保全活動団体への支援

県内の里山保全活動が促進されるよう、里山の保全、整備の活動を継続的に行っている８団体の活動に対して助成を行った。

４）企業等の緑化研修会の実施（緑化推進団体等担当者研修会）

事業所等における緑地の造成から維持管理について、現場での実例を交えながら学ぶ研修会を行った。

開催日：令和４年１１月１５日（火）
場所：滋賀県林業普及センター
参加者：工場・事業所緑化担当者、市町緑化推進委員会職員等３６人
内容：樹木医中西肇氏から緑化と樹木管理の方法について講義・指導を受けた。

５　国際緑化協力の推進（県内国際交流会の支援）

県内在住外国人と緑の少年団との国際交流会は新型コロナウィルス感染防止のため取りやめた。

６　情報公開の一層の推進および効果的な公益財団活動の研究

当会ホームページやフェイスブックの新着情報コーナーにより、随時活動報告をして、広く情報提供を行った。また、ラジオ等様々な広報媒体を積極的に活用して情報公開の一層の推進により、緑の募金の認知度を高めた。

効果的な公益財団活動の研究については、近畿７府県で構成する近畿地区緑化推進協議会に参画するとともに、全国緑化推進委員会連絡協議会総会等（今年度は新型コロナウィルス感染防止のためオンライン）で情報収集を行った。

【参考】　（過去実施していた事業）

３）淡海の巨木・名木次世代継承事業

また、緑の文化遺産ともいうべき県内の巨木・名木に直接眼に触れることによって、緑化思想の高揚と啓発を図ることを目的とした「巨木・名木ツアー」は新型コロナウィルスの感染防止対策のために取りやめた。

※８）学校環境緑化モデル事業（緑と水の森林ファンド事業）ローソン　緑化一般事業

学校環境の緑化を通じて青少年の環境教育の推進を図るため、公益社団法人国土緑化推進機構が「ローソン緑の募金」の協力を得て実施している学校環境緑化モデル事業として、〇〇小学校が採択され、交付金の助成決定を受けた。

Ｒ３　彦根市立稲枝北小学校
Ｒ４　実績なし
Ｒ５　甲賀市立水口小学校、彦根市立稲枝西小学校

※９）学校林を活用した森林環境教育促進事業　　緑化一般事業

学校林を活用してボランティア団体等と連携して森林環境教育を促進するため、公益社団法人国土緑化推進機構が実施する事業に長浜市立古保利小学校林が２年連続で採択され、交付金の助成決定を受けた。

→　Ｒ４実績なし　　Ｒ５実績なし

５　国際緑化協力の推進（県内国際交流会の支援）

多賀町緑化推進委員会が高取山ふれあい公園で実施する予定の県内在住外国人と緑の少年団との国際交流会は新型コロナウィルス感染防止のため取りやめた。